

マネジメント学部ゼミナール協議会主催

# マネジメント学部発表会

M2702  
F16C  
2709

展開ゼミナールの各ゼミ生（3年生）がプレゼンテーションを行い、優秀ゼミを選ぶ。  
発表時間 10分、質疑応答 8分、入れ替え 2分の予定

日時 2013年11月30日（土）13時～18時  
場所 文京キャンパス 7階、8階、ブロッサムホール

予選：28ゼミを7つのブロックに分ける  
本選：7つのゼミがプレゼンを行い、最優秀賞、優秀賞などを決める  
使用教室：M2802、M2803、M2805、M2702、M2703、M2705、M2706、M2101

※欠席ゼミが出た場合は、時間を繰り上げて発表してもらいます

	開始時間	終了時間	ブロック							
			1ブロック	2ブロック	3ブロック	4ブロック	5ブロック	6ブロック	7ブロック	
予選	教室		M2802	M2803	M2805	M2702	M2703	M2705	M2706	
	13:00	13:20	花岡	齋田	井口	山下	曾田	禿	高橋	
	13:20	13:40	石塚	宮崎	鷹	塩月	イシカワ	崔	山澤	
	13:40	14:00	福田	許	天野	笠原	村田	奥田	内村	
	14:00	14:20		芝原	篠原	石渡	村上			
	14:20	14:30	移動(2101)							
	14:30	14:35	予選通過ゼミの発表							
	14:35	14:45	山澤ゼミプレゼンテーション							
	本選 (M2101ブ ロッサム ホール)	14:45	15:00	休憩						
		15:00	15:20	1ブロックの勝者						
15:20		15:40	2ブロックの勝者							
15:40		16:00	3ブロックの勝者							
16:00		16:20	4ブロックの勝者							
16:20		16:40	5ブロックの勝者							
16:40		17:00	6ブロックの勝者							
17:00		17:20	7ブロックの勝者							
17:20		17:30	村上ゼミプレゼンテーション							
17:30		17:45	休憩							
17:45	18:00	最優秀賞、優秀賞の発表								

山澤  
石塚  
中橋  
中橋

## □ 日程

11月30日（土）の実施

⇒ 次の日が就職活動解禁日であったため、学生はスケジュール的にきつい。また、学外のプレゼン大会もこの時期に重なりがちである。

◇ 来年度はもう少し早い時期での実施が望まれる。何月がいいか？

## □ 会場

予選は6～8階の教室を使い、本選はプロッサムホールを使用。

⇒ 予選の会場は、当初予定していた教室がプロジェクター、PCが使えないことが、当日に分かる。

本選は当初8階の広い教室を予定していたが、村上ゼミ（模範プレゼンテーション）の希望により、会の2週間前に変更する。そのため、チラシでのプログラムの掲載には間に合わなかった。ただ、結果的に聴衆の入り具合から、プロッサムホールでの開催は好ましかったと言える。

◇ 使用できる機器の確認をして、教室を押さえること。本選にプロッサムホールを使うことは継続が望ましい。

## □ プログラム（予選・本選の）構成

開講ゼミ数 28ゼミ、参加ゼミ数 25ゼミ（種田、鶴田、小川の各ゼミが不参加）

予選 7ブロック×4チーム、本選 7チーム（各ブロック勝者）

予選終了後 山澤ゼミの模範プレゼンテーション、本選終了 村上ゼミの模範プレゼンテーションの実施

◇ 審査の点数集計の時間確保のためにも、模範プレゼンテーションの実施は必要であった。もちろん、内容が学生たちへの刺激になった点もよかった。

◇ 本選7チーム+模範プレゼンテーションの計8チームの発表が休みなしに行われたため、聴衆・審査員がきつい。途中、休憩をはさむほうが望ましい。

◇ 予選の組み合わせによって、本選出場の難度が異なり、発表学生のモチベーションが下がるケースもあったようだ。そのため、ワイルドカードや敗者復活戦を設けることも考えられる。（→ 時間が一層長くなることが考えられるので、そうなると、半日スケジュールから一日スケジュールに拡大することも考えなければならぬかもしれない。）

## □ 審査

◇ 審査員の依頼方法

◇ 学生が大変苦労した。来年度は、審査可能な教員の名簿を教員から学生スタッフに渡して、その中で審査員の割り振りをお願いする形にして、学生スタッフの作業軽減を図ったほうがよいのではないか。

◇ 学生審査員の確保をどのように行ったらよいか？？

◇ 審査方法

◇ これについては、多くのゼミや教員から改善を要求する声が上がっている。審査項目、Q&Aのやり方（質問がこの時間にでないと、質問対応力の点数が伸びないなど）、審査項目の事前公表、など。そのため、来年度にむけて大幅

な改善が望まれる。

◇ 審査表

- ◇ 教員の審査点と学生の審査点の倍率が違うにもかかわらず、同じ書式であるため、教員の審査点を2倍にせずに計算して発表してしまい、後で修正するハプニングが一つの予選であった。順位に変動がなくことなきを得たが、審査表は工夫をしたほうがよい。
- ◇ 審査表が、当日に配布できるよう準備されていなかった。

□ 司会

⇒ 予選でだが、司会者が、審査委員ではない員に意見はないか、と聞いてしまったため、他のチームの担当教員が報告チームのプレゼンテーションにネガティブなコメントをしてしまった。このやりとりが自分たちのプレゼンテーションへの審査委員へのマイナスなイメージを植え付けたのではないか、という意見が報告チームから上がっている。

- ◇ Q&Aのやり方については、司会者（+教員）にもきちんと周知すべきである。

□ 賞品に関して

賞品の内容が途中で変わった（downgrade）ことが、参加者に十分周知されていなかった。賞品の数についても不具合が生じた。

- ◇ 賞品の内容の周知が必要。
- ◇ 賞品を受け渡し方は、多くの参加者に会場に残ってほしかったために、学部発表会全体が終わった後としたが、それはあまり有効に機能しなかったように思う。

□ 資金調達の仕方

- ◇ 今年度は、学生がゼミ担当の教員に依頼をしたが、かなり申し訳なさそうだった。教員からは、教員が集めたほうがよい、という声も上がっている。来年度はどのように修正をしたほうがよいかもしれない。

□ 広報の仕方

⇒ ポスターの掲示（新座、文京）、およびチラシの配布（新座、文京）を行った。スケジュールの確定が遅れ、広報自体が遅くなったことは残念だったが、やり方自体は、今年度を踏襲することで問題ない。

□ 出席ゼミの確認

⇒ いくつかのゼミが報告をしないことになったので、心配になって、当日近くに、報告ゼミの代表者を学生スタッフに連絡するようにした。もう少し早い段階で、エントリー制度を設けることも考えられるかもしれない。

- \*原則全ゼミが対象なので、出ないゼミを申し出てもらったほうがいいのかもしいが。

□ 学部発表会担当者の作業開始時期について

今年度は7月上旬（？）が第1回の会合となった。遅いか早いかな？

# マネジメント学部発表会 総括

宇部・猿橋

## 1. 事前準備

### ① ミーティング

学部発表会4カ月前に一度集まり、各担当を決めた。その後、各担当で仕事を進めてもらい、全体で集まったのは学部発表会開催1カ月前からであった。

#### 【反省点】

- ・全体で集まり出す遅かったため、各担当の仕事の進行具合が把握できなかった。
- ・ミーティングの開催日時が不定期だったので、全員が集まらなかった。

#### 【改善点・来年に向けて】

- ・定期的に集まる日にちを事前に決めておく。
- ・集まる回数を増やす。

### ② 集客

ポスター、パンフレットで集客を行った。最優秀賞、優秀賞・参加賞の有無を記載した。茗荷谷キャンパスだけではなく、新座キャンパスにもポスターを設置し、二年生に向け集客も行った。

#### 【反省点】

- ・ポスターの記載商品と相違があった。
- ・当日集まったのは、発表者のみが多かった。

#### 【改善点・来年に向けて】

- ・ポスターなど、最終確認を怠らないこと。
- ・OC開催日と同日に行えば、大学のPRにもなり、集客が望めるのではないかと。
- ・ゼミの出席と兼ねることにより、三年の集客が望めるのではないかと。
- ・各ゼミの先生からもっと強く学部発表会について喚起してほしい。

### ③ カンパ

学部発表は主にカンパで集めたお金で運営した。代表・副代表が各ゼミ教員に手紙を書き、一人2000円から、という形でカンパをお願いした。

#### 【反省点】

- ・集金がばらついたため、賞品の金額設定が低くなってしまい、残金が多かった。

#### 【改善点・来年に向けて】

- ・集金の日取りを正確に決めるべき。
- ・学生から教員にお願いしづらいので、教員から教員にカンパの旨を伝えてほしい。

### ④ 賞品内容

最優秀賞、優秀賞、ブロック優秀賞、参加賞を購入した。最優秀賞はグルメカード1万円、優秀賞グルメカード5000円、ブロック優秀賞グルメカード2000円(不確定)、参加賞クッキーの詰め合わせ、また当日、審査員をお願いした教員にお菓子の詰め合わせを渡した。

#### 【反省点】

- ・集金がばらついたため、賞品の金額が事前に決めていた金額より下がってしまったこと。

予せん、敬呈。は  
しんぎんをばらばらにする → はせい、新座でしか  
集客とふり

# マネジメント学部発表会 総括

宇部・猿橋

→ポスター記載額と相違していた為、当日学生から指摘された。

【改善点・来年に向けて】

- ・賞品の購入は集金後に行うべき。
- ・事前に金額設定をしない→何かあった時対応できる。
- ・審査員の教員に向けての商品は、一部教員から「必要ない」と言われた。

## ⑤ 審査員依頼について

学生は発表者の中(予選)から強制的に一名、選出した。決勝の審査員についてはゼミナール協議会の学生に依頼した。教員に関しては、代表・副代表がメールで審査員を依頼した。

【反省点】

- ・教員審査員が正式に決定したのが開催直前であった。

【改善点・来年に向けて】

- ・早めに教員に依頼するべき

## 2.当日

### ①当日の流れ

担当者は学部発表会開始2時間前に集まり、リハーサルや最終確認を行った。

予選・本選の開始と共に各自担当場所での仕事となる。

【反省点】

- ・事前の確認不足が目立った。(コメントペーパーの不足、商品配布のミス、プロジェクターの有無の確認)
- ・予選の入れ替え時間など、ちゃんと把握できてなかった。

【改善点・来年に向けて】

- ・当日は事前に確認シートを作成し、それに沿って行動する。
- ・前日までにリハーサルを済ませておき、当日は最終確認を徹底的に行う。
- ・予選の最中は問題があったときに人手不足となるので、自由に動ける人が必要である。

### ②審査

予選の審査は、各ブロック教員1名、出場学生2~3名で行われた。(ただし学生は、自分のゼミ以外を審査する)

本選の審査は、教員3名、学生2名で行われた。

【反省点】

- ・教員の採点は2倍と設定していたのだが、担当者の情報共有不足で2倍になっていないところがあった。
- ・本選審査員の教員の受け持っているゼミ生が本選出場をしたので、不公平ではないかという意見が出てしまった。

# マネジメント学部発表会 総括

宇部・猿橋

## 【改善点・来年に向けて】

- ・集計については厳しい意見を頂いたので、担当者の情報共有はしっかりする。
- ・審査員の教員はなかなか見つからないので、早めをお願いするべき。
- ・文学部の学生にも審査員をお願いして見てもいいと思う。
- ・本選は様々な角度から審査してほしいので、各学科の教員 1 人ずつをお願いした方がよい。
- ・本選の出場ゼミ生とその教員が被ってしまった件は、外部の審査員を呼ぶ、審査員を多めに用意して平均点を出す形式にする、など改善点は様々。

## ③質疑応答

予選も本選も質疑応答時間は 8 分を設けた。予選は、担当審査員はもちろん、一般の観客にも質疑応答させた。

### 【反省点】

- ・本選は、8 分では質疑応答の時間が足りず、何度か時間を延ばしてしまった。

### 【改善点・来年に向けて】

- ・本選では、質疑応答の時間を増やす、または学生を主体として行ってもいいと思う。

## 3.まとめ

全体的に当日はとてもバタバタしてしまい、思うように動けなかった。確認不足が多かったことが原因だと思う。事前に仕事内容や当日の流れを一人一人確認し、当日はチェックリストなどを作成し、それに沿って行えばもっと円滑に会を進行できたと思う。

また、伝達方法として LINE だけではすこし心配であったので、先生方に直接伝達するか事前に一度ゼミナール協議会を開き、口頭で伝達すべきであった。

発表者様へ

(ワイルドカード)